

平成 27 年晩秋の万世大路を歩く

- その 3 -

3. 昭和の大改修、昭和の「七曲坂」その1(オサ沢→第3段目道路)

前記の通り旧大滝運搬路入口付近(旧国道13号)で昼食を取った後、今度は二人で新沢橋まで散策したもので、仮称「七曲バイパス」の想定される終点オサ沢付近(福島側)までは前節で紹介したところである。本節以降では、仮称「昭和の七曲坂」(説明し易いように著者勝手に命名)となるオサ沢付近から昭和の大改修で架替えられた新しい「新沢橋」までを紹介するが、第2号カーブで分割し本節ではオサ沢から第3段目道路までを〈その1〉として報告する。

さてわれわれは引き続きオサ沢からモリモトまでは軽トラックで走行し、モリモトから下の新沢橋までは往復徒歩で晩秋の万世大路を楽しんだ。と云うことで、往復したわけであるが、写真は適宜混在させているものの、下り方向すなわちオサ沢から新沢橋に向かう形で紹介していくものとする。

昭和の「七曲坂」は、7段の道路と6箇所のカーブから構成されている。この内本節で報告する第7段目道路(オサ沢付近まで)～第3段目道路までは明治期万世大路を基本的に踏襲し一部補修して使用されたものと云われている(『改修史』185頁)。

次節報告の第2号カーブから下の第2段目と第1段目の道路(第1号カーブ、第2号カーブ)は、昭和の大改修で新設されたバイパス相当の道路になる(次節で報告)。

また、この「昭和の七曲坂」は、明治期初代万世大路において「大回^{おおまわ}り坂」(『福島縣下中野新道^{ごつうれん}御通輦^{えんどうちず}沿道地圖(明治14年)』(福島県立図書館所蔵、『明治天皇紀 第五』(宮内庁、昭和四十六年三月、吉川弘文館、524頁)と呼ばれた区間の一部になると考えられる。

【写真順序】 オサ沢(昭和の「七曲坂」第7段目道路)→モリモト(殉職警察官之碑跡※)→昭和の「七曲坂」第6号カーブ→第6段目・第5段目(第5号カーブ)→第4号カーブ(謎の石材、雑石集積)→第4段目道路(第3号カーブ)→第3段目道路(老杉大木と明治期割石積)→第2号カーブ(残存明治期初代万世大路入口)

※「殉職警察官之碑」について詳しく知りたい方は大滝会 HP の下記を参照されたい。

「殉職警察官之碑について」

<http://ootaki.xsrv.jp/morimoto.pdf>



写真-29① オサ沢(御沢)を手前旧万世大路から望む。撮影位置は沢の横断箇所、現在路面が拡幅され車両(軽自動車)通行可(従前幅狭く徒歩のみ可)。



写真-29② オサ沢上流を望む。中央の木は「カーコの木」(山桐、沢胡桃(サワグルミ)の地元呼称)。用材として、炭焼小屋建物用、皮は屋根葺き用等として利用。下駄や経木(きょうぎ)、マッチ棒にも利用された。



写真-29③ オサ沢下流を望む。



写真-29④ オサ沢、旧万世大路国道13号横断部(暗渠)。以前は人がやっと通れる幅であったが現在軽自動車クラス通行可。



写真-30① 殉職警察官之碑跡(左側階段)と、誤って上って行ったと思われる無名沢付近(この上流で殉職(M21.1.5)と伝えられる)。本来の帰路であった明治の「七曲坂」上り口を彷彿とさせる(写真-5 参照)。現在の林は樺であるがこれは植林したものと云う。明治時代は別な林相であったろう。



写真-30② 殉職警察官之碑跡(階段の上)と無名沢上流を望む。



写真-30③ 昭和大改修「昭和の七曲坂」第7段目道路モリモト付近。殉職碑跡からオサ沢(米沢側)方向を望む。



写真-30④ 昭和大改修「昭和の七曲坂」第7段目道路モリモト付近。殉職碑跡付近から第6号カーブ(福島側)を望む。



写真-30⑤ モリモト付近で立木などの後片付けをするボランティア。オサ沢(米沢側)方向を望む。



写真-31① 「昭和の七曲坂」第6号カーブを米沢側(第7段目道路側)から望む。



写真-31② 「昭和の七曲坂」第6号カーブを福島側(第6段目道路側)から望む。



写真-32① 「昭和の七曲坂」第6号カーブ付近から第6段目道路を望む。



写真-32② 第6段目道路中間部から第5号カーブを望む。



写真-32③ 第6段目道路側から第5号カーブを望む。



写真-33① 第6段目道路側から第5号カーブを望む。



写真-33② 第5段目道路側から第5号カーブを望む。



写真-33③ 昭和の「七曲坂」第5号カーブから第5段目道路を望む。



写真-34① 「昭和の七曲坂」第5段目道路中間部、最初(米沢側から数えて以下同)のカーブ箇所。第4号カーブ側(福島側)を望む。



写真-34② 第5段目道路中間部、2番目のカーブ付近。第4号カーブ側(福島側)を望む。



写真-34③ 第5段目道路中間部、3番目のカーブ付近。第4号カーブ側(福島側)を望む。



写真-34④ 第5段目道路から第4号カーブと4段目道路を望む。



写真-35① 第4号カーブ。第5段目道路から望む。



写真-35② 第4号カーブ。第3段目道路から第4号カーブを望む。



写真-35③ 第4段目道路第4号カーブ付近に集積された謎の雑石の山。第3段目道路から望む。



写真-35④ 第4号カーブ箇所に積まれている謎の雑石。



写真-36① 第4段目道路、第4号カーブ付近から第3号カーブ(福島側)方向を望む。



写真-36② 第4段目道路から第3号カーブ(福島側)を望む。



写真-36③ 第4段目道路中間部から、第4号カーブ(米沢側)を望む。



写真-36④ 第3号カーブ付近から第4段目道路を望む



写真-36⑤ 第4段目道路から第3段目道路(写真右、山側斜面に老杉大木)、その下に第2段目道路を望む。林の中、僅かに現国道13号の防雪柵が見える。



写真-37① 「昭和の七曲坂」第3号カーブ。第4段目道路側から望む。間知石積(練積)が施されている。



写真-37② 第3号カーブ。第3段目道路側から望む。



写真-37③ 「昭和の七曲坂」第3号カーブ。左側第4段目道路、右側第3段目道路。



写真-37④ 第3号カーブ、間知石積(練積)



写真-37⑤ 間知石積(練積(ねりづみ)) 近接写真。目地や胴込にコンクリートが使用されている。



写真-38① 第3号カーブから第3段目道路を望む。



写真-38② 第3段目道路から第3号カーブを望む。



写真-38③ 第3段目道路中間部と老杉大木。樹齢は定かでないが明治と昭和の3代の万世大路を見守ってきたのであろう。第3号カーブ側(米沢側)を望む。



写真-38④ 第3段目道路中間部から第2号カーブ側(福島側)を望む。右下は、第2段目道路。



写真-38⑤ 割石積と見られる石積。第4段目道路の盛土法尻を押さえたものか。老杉大木のすぐ東側。第3段目道路から望む。



写真-38⑥ 割石積と見られる石積(空積(からづみ))。比較的新しく見えるので、昭和の大改修において施工した可能性もあるが明治期施工のものと仮定しておく。

- [その4](#) に続く -